
HIDACOLLE JOURNAL

06 AUTUMN
2023



ヒダコレ 家具

〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 3-362

Cases

暮らしに寄り添う家具づくりを。



01

『家』の中には様々なシーンがあります。家族が集うシーン、一人でゆっくり寛ぐシーン、心穏やかに眠りにつくシーン…。そのどのシーンにも『家具』が存在します。ヒダコレでは、お客さまの「こんな家具があればなあ」という想いや希望を一つ一つ丁寧に伺いながら、お客さまが本当に欲しい家具、暮らしに寄り添う家具を作り、家という箱の中に『暮らし』を作るお手伝いをしていきたいと考えています。

今回の journal では、お客さまと一緒に考えて作らせていただいた事例を紹介していきます。



02



03



06

一緒に
お部屋づくりの夢を叶えましょう。

01 岐阜県白川郷のお宿『城山館』様。お部屋から四季折々の美しい景色を眺める時にすわる座椅子のご相談をいただきました。座面は造り付けカウンターに合う高さにし、ゆったりと寛げるサイズ感と背もたれをつけました。

02 無垢の木の風合いがたっぶりの洗面室用鏡。自然の木の耳を生かした鏡は、お客さまの使い方やスペースに合わせてサイズオーダーで作らせていただきました。

03 ブラックウォルナットのTVボード。前面の引出しと扉には和の伝統的な格子を取り入れました。着色をしない自然の木の色なので、それぞれ微妙に色合いが違うところが無垢の木ならではの。

04 Webから「好きな形の天板でテーブルを作ってもらえますか?」とお問合せをいただきました。お客さまご自身に天板の型紙を作っていただき、ご希望通りのテーブルが完成しました。

05 ニレ材と倉敷帆布のクッションがナチュラルモダンなお部屋の雰囲気にとぴったりとマッチしました。木部は7種類の中から、クッション部分もお好みの素材と色を選んでいただくことができます。

06 お客さまと一緒に何度も何度もメールや電話のやり取りをし、試行錯誤しながら完成した洗面収納と鏡。既製品とは違った、その空間やイメージにぴったり合うものが完成しました。

07 岐阜県関が原町にある『せきがはら人間村』様。施設内にある研修施設・カフェ・食堂に様々な家具をおさめさせていただきました。

08 二人のお子さまのスタディスペース。パーティションの反対側にも同じ仕様のデスクと収納があります。スタディスペースとして使わなくても、組立式なのでそれぞれ単体で使える仕様です。

09 背もたれのないカウチソファ。お気に入りのクッションを並べて、胡坐をかいたりゴロゴロ寝転んだり…自然と家族が集うような寛ぎのスペースが完成しました。



04



05



07



カフェ・ホテルなどの商業施設にも。



「こんな家具があつたらなあ」をお作りします。

08



09

無垢の家具には見た目の美しさだけでなく、自然の木の温もりや触れた時の優しさが感じられます。また、使う人の暮らしとともに経年変化し、思い出が刻まれ、唯一無二の大切な存在となっていきます。

ヒダコレの作るカスタムオーダー家具は、お客さまそれぞれの家やお部屋の形、そして暮らし方に合った使い勝手のいい家具でありたいと思っています。

ご提案から設計、家具製作、お届け設置、そしてアフターフォローまですべてを一貫しておこなうことで、お客さまの夢を叶えるお手伝いをさせていただきます。

ヒダコレの人

hidacolle
people



橋本 奈々

福岡県福岡市出身。
高山市の森林たくみ塾で2年間木工の技術と知識を学んだ後、結婚・出産を経て2022年ヒダコレ家具に入社。子育てをしながら日々製作に励むママ木工職人。

ヒダコレ家具最年少のスタッフは、木工職人であり、家に帰れば2歳児のママでもあります。そんな彼女がママ目線で企画し、図面を書き、製作をしたのが『こどもデスク&スツール』です。この商品がどんな風にして作り出されたのか、製作への思いなどを聞いてみました。

—— まずは、どうして木工職人になろうと思ったの？

橋本 小さいころからモノ作りが好きで、大工さんになりたいと思っていました。でも、家は規模が大きすぎて全部を一人で担うわけにはいかないんだということがわかって…。それと私は小柄なので、柱をかついだりする大工さんはちょっと無理かなと(笑)。あとは『木』が好きで中学生の時にDIYでテーブルやベンチを作ったりして、家具なら設計から製作まで自分でできる！と思い、家具職人という選択肢ができました。

—— 子どもデスク&スツールが開発のきっかけはヒダコレ内コンペ。新商品アイデアを製作・営業・企画スタッフ全員から募集した結果採用されたんだけど、このデスク&スツールにした理由は？

橋本 実際に子育てしているからこそ考えられるアイテムかなと思ったからです。

—— 経験をもとにすることね。具体的にはどんなところがポイント？

橋本 カタチは使いやすいさと可愛らしさ両方を兼ね備えたものにしてよと思ってました。小さい子供って食事の時にこぼすんですけど、テーブルと身体の間から床に落ちるんです。

でも、このカタチなら身体部分が少し中に入るので、自然にテーブルに密着して床に落ちにくくなるんじゃないかと。

—— なるほど！

ちょっとピーナツのようにサイド中央部分が緩やかにカーブして引っ込んでいるもんね。

橋本 ピーナツではなく『飯ごう』

のカタチがヒントに…(笑)。どんなカタチにしようかと色々探していた時に目にとまったのが飯ごうで、直感的に「これ可愛い！」ってピンとききました。

—— ママとして子どもに使わせるもので、「可愛い」というワードは大切ですよ。

橋本 はい、そうです。ただヒダコレサイドからの要望で『子ども世代のうちしか使えないものではなく、大人になってもずっと使えるものを』ということだったので、可愛いけれど可愛すぎないデザインということも考慮しました。そしてどちら側からも使えるようにシンメトリーにしたところもポイントです。

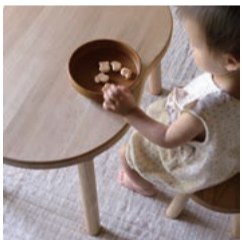
—— 最後に、このデスク&スツールを使ってくださる方に何か伝えたいことがあれば。

橋本 お子さんに落書きされちゃっても汚されちゃってもオイルメンテナンズできれいになるので、永く永く使っていたいです。デスクはサイドテーブルとして、スツールは花台などとして、用途を変えて愛用してもらえたら嬉しいです。そしてご自分にお子さんができた時にもつかってもらえたら最高です！



飯ごうからヒントを得た天板と座板

こどもデスク&スツール



『大人になってもずっと使い続けることができる』をコンセプトに製作しました。1歳半～4歳頃まではデスク&スツールとして。少し大きくなったらデスクは座卓として。大人になる頃にはソファなどの横に置いてローテーブルとして長く使えます。スツールは花台や飾り台など用途を変えてお使いいただけます。

NEW PRODUCTS

ペットソファ



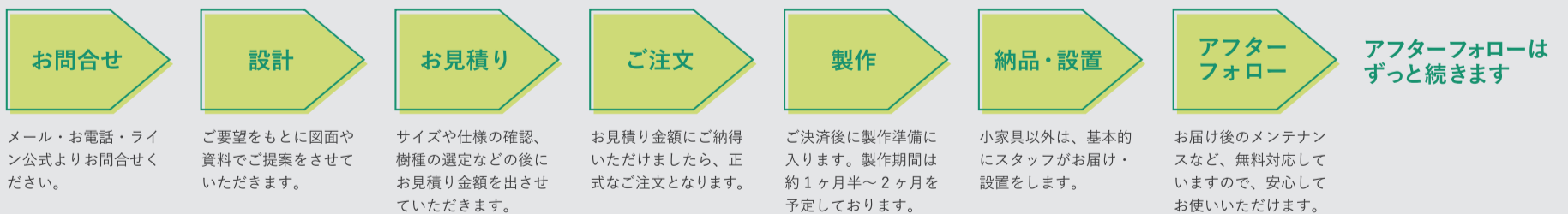
家族の一員であるペットがリビングで寛ぐためのソファです。上り下りが負担にならないよう低めの座面にし、クッションの下は通気性のいいスノコ状にしています。また、ワンちゃんがアゴを乗せられるようクッション部分をサイドまで広げました。カバーは中身を取り出して洗濯が可能です。

お札立て



神聖なお札を祀るのにぴったりです。シンプルなデザインと無垢の木の持つインテリア性で、和室はもちろん洋室にもなじみます。溝があるので、お札を立てやすい仕様になっています。天板の前面は木の耳を残しており、より自然の風合いと存在感があります。

・・・ご相談から家具づくりまで・・・



1. ご縁・ご相談の場をつくる



2. 家具を考える時間をつくる



3. 既製品では見つからない家具をつくる



お客さまと一緒に取り組む3つの『作る』

ご相談はお気軽にどうぞ
Mail/info@hidacolle.com
電話 /0120-690-315

ヒダコレさんなら作ってくれるかな？

飛驒の手仕事 vol.3

吹き硝子作家 安土 忠久



岐阜県高山市出身の吹き硝子作家・安土忠久さんの作品は、代表作のグラスに見られる通り『へちかんだ』味が多くの人を魅了しています。

『へちかんだ』は飛驒地方の方言で、「ゆがんだ」「曲がった」というような意味です。自然のゆらぎがそのまま形になったへちかんだグラスには、温かみと自然のエネルギーがあふれ出ていると同時に、そのフォルムには何とも言えない愛らしさもあり、多く人の心を惹きつけます。

へちかんだグラスだけでなく、どの作品もどれをとっても世界に二つとない特別な逸品ばかり。それでいて特別な日だけに使うような器ではなく、日常の中に自然に溶け込む「毎日使いたい器」なのです。手にとった時のぼつりとした重量感、器の縁が唇に触れた時の優しさや温かみに心安らぐ、それが安土さんが作り出す器。流行にとられないことなく、その作風を貫き続けてきた作品は、一目見て『安土忠久さんのグラス』とわかります。

確かな審美眼と精緻な文章で日本の美を追求する作品を残した随筆家・白洲正子さんもこのへちかんだグラスを愛用されていたお一人でした。

安土さんは作られた作品について、「作ったものは、僕の手を離れていけば誰が作ったかわからなくなるけれど、その存在感と使う人の関係は何年も続いていく。僕はそれが嬉しい」と言われます。この言葉が意味する通り、ヒダコレで安土さんの作品をお買上げいただいたお客さまからは

「母が生前大切にしていた安土さんのワイングラスを私も使いたくて…」
 「息子が成人したので、安土さんのウィスキーグラスと一緒に酒を飲みたい」
 など、一つのグラスを通して人と人の繋がりを感ずる話題が尽きません。こういうお話を聞くたびに安土さんにもお伝えすると

「お客さんと僕の作品のエピソードを聞くと力が湧いてきて、制作の原動力になるんだよ。ありがとう！」と優しい笑顔でこたえてくれます。多くの人を魅了し、愛され続けている作品には、安土さんのこんなお人柄もあらわれているのかもしれないね。

ヒダコレでは常時安土忠久さんの作品を展示させていただいています。飛驒高山にお越しになる機会があれば、ぜひ店舗にもお立ち寄りいただき作品を手にとってご覧になってみてください。

1. ヒダコレで開催した展示会でとても人気だった泡シリーズのサラダ鉢。無数の細かな泡が食卓を涼やかに演出してくれます。
2. へちかんだグラスとピッチャー。愛おしくなるようなフォルムです。
3. 安土さんの工房に無造作に並ぶ作品。ここから作品を選ぶときは、宝探しをするような気持ちに。
4. 炉の前ではなく、調理台の前に立つ安土さん。時々奥さまと一緒に料理をされることも。
5. お二人で作っていただいたお屋ごをはんご馳走になったことも。とても気さくなお人柄です。



おすすめスポット

スタッフがおすすめする飛驒高山の飲食店やスポットなどをご紹介します

※SNSやお電話で、店舗営業状況などをご確認の上お出かけください。

FUDO 風土 〈イタリアンレストラン〉



築100年の古民家を移築リノベーションした店内は、アンティークな家具やインテリアがしつらえてあり、気取らずゆったりと寛げる心地よい空間になっています。ランチタイムは飛驒高山で採れた野菜をふんだんに使った、見た目にも色鮮やかな板ランチが人気。ディナータイムはカジュアルなイタリア料理がセットになった、ディナーセットとアラカルト料理が楽しめます。パスタはグルテンフリーに変更することが可能。

岐阜県高山市西之一色町3丁目936-1 〈Tel〉 0577-70-1006
 〈Open〉 11:30-15:00/17:30-21:30 ※火曜ディナータイムと水曜定休日
 〈Instagram〉 fudo_9361 〈Web〉 <https://www.fudo-restaurant.com/>

ざる蕎麦せと



ソバの品種それぞれの特徴が引き出せるよう、手動石臼と電動石臼の2種の石臼を使って粉を引き分けてあります。種類の違うソバを毎日4種類用意しており、産地と製麺方法を食べ比べることができる、他にはあまりない蕎麦屋さん。甘いソバ、香ばしいソバなど、行くたびに色んなソバの持ち味と魅力を楽しむことができます。

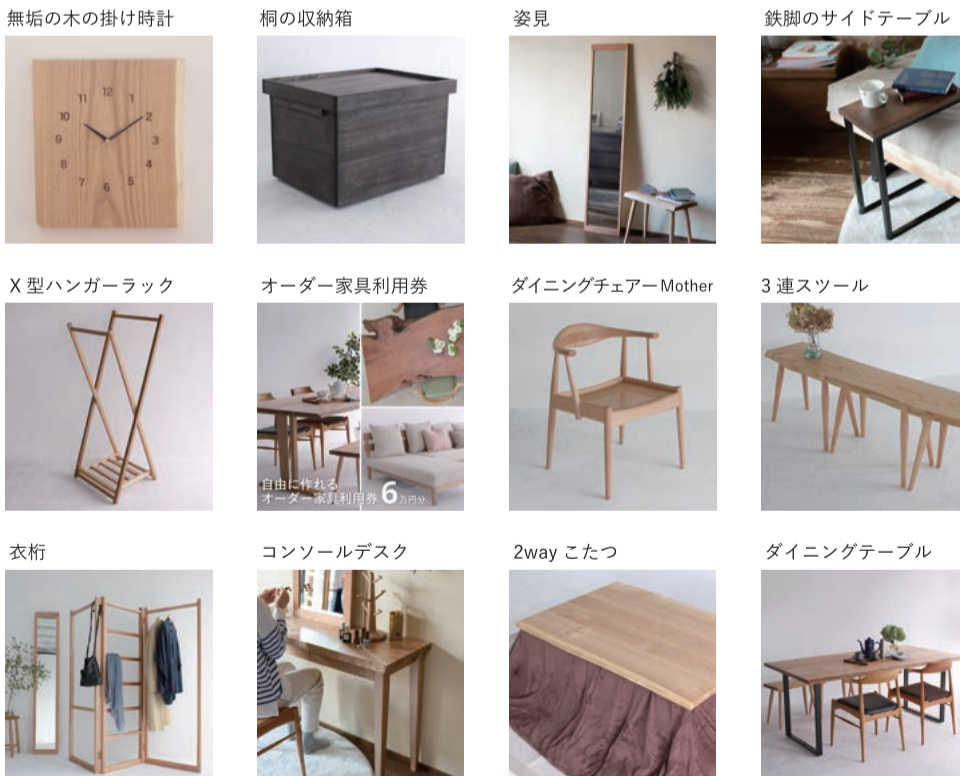
岐阜県高山市下岡本町1660-5
 〈Tel〉 0577-35-5756
 〈Open〉 11:00-16:00 ※水曜定休日
 〈Web〉 <https://zarusoba.com/>

インフォメーション

お店のこと、工房のことなど、最新のヒダコレ情報をお届けします

ふるさと納税返礼品にヒダコレの家具をお選びいただけます。

楽天・ふるなび・ふるさとチョイス・ANA・JAL・さとふる(一部)などのサイトに返礼品として出品しています。下記写真の他にも対象アイテムが沢山ありますので、ぜひご利用ください。(右のQRコードから全アイテムをチェックできます)



お問合せは下記よりお気軽にどうぞ!



ヒダコレ家具

〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町3-362
 TEL : 0577-57-7555 / 0120-690-315
 <OPEN> 9:30-17:30 <CLOSE> 水曜日
 ※高山駅より車で約4分、高山ICより車で約8分
 ※駐車場 / 店舗前・のぼり屋さん(向いのパン屋)横

HIDACOLLE JOURNAL 05/2023.9 発行

